

令和4年8月1日

各関係機関の長 殿

国立大学法人富山大学長  
齋 藤 滋  
(公印省略)

小児科学講座 教授候補者の公募について (依頼)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本学学術研究部医学系では、小児科学を担当していただく教授候補者を下記要領にて公募することとなりました。

つきましては、貴学及び関係機関等に、小児科学に関して学識経験が豊富な候補者がおられましたら、ご応募いただきますようお願いいたします。

また、本学の大学院博士課程の教育及び研究指導もご担当いただくこととなりますので、ご承知おき願います。

謹白

記

1. 募集人員 教授 1名  
本学では任期制を採用し、任期を10年としております。(再任可)
2. 応募資格
  - ・博士の学位を有する者(または研究上の業績がこれと同等以上と認められる者)
  - ・日本小児科学会 小児専門医及び認定指導医の資格を有する者
  - ・教育・研究歴10年以上の者
  - ・当該専門分野における研究業績があり、大学院修士課程及び博士課程における教育・研究指導が担当できること
  - ・科学研究費補助金等外部資金の獲得に意欲があること
  - ・地域貢献活動等、全学的活動に積極的に寄与できること
  - ・英語で講義ができることが望ましい
3. 提出書類
  - (1) 履歴書(別紙様式1)
  - (2) 教育研究業績書(別紙様式2-1~6)  
特に重要と思われるもの約10編の番号に○を付してください。
  - (3) 研究論文(PDF ファイルを収めた電子媒体(CD-ROM または DVD) 1部)
    - ① 最近5年間(2018年以降)における英語の論文全編
    - ② 上記①以外の主要な論文10編程度
  - (4) 科学研究費等研究助成取得一覧(別紙様式3)
  - (5) 診療の実績とこれからの取り組み(2,000字程度:様式適宜)
  - (6) 研究の実績と将来像(2,000字程度:様式適宜)

- (7) 卒前・卒後の医学教育の実績と考え方 (2,000 字程度：様式適宜)
- (8) 着任後の講座運営への取り組み (2,000 字程度：様式適宜)
- (9) 推薦書 (様式適宜)  
※提出いただいた書類に含まれる個人情報、今回の選考以外の目的には使用しません。

4. 応募期限 令和4年9月30日(金) 17時必着  
※応募状況によっては、応募期限を延長する場合があります。

5. 書類送付先

〒930-0194 富山市杉谷 2630

国立大学法人富山大学 学術研究部医学系長 (医学部長) 宛

6. その他

- (1) 応募は原則として郵送 (書留) とし、封筒の表に「小児科学講座教授候補者応募書類在中」と朱書きしてください。なお、応募書類は原則として返却いたしません。
- (2) 場合によっては、各専門分野の診療実績等の書類提出、面接及び講演等をお願いすることがあります。
- (3) 着任時期は令和5年4月1日以降のできるだけ早い時期。
- (4) 労働条件については、本学職員就業規則によることとします。  
なお、本学では令和2年4月1日から新年俸制 (退職時に退職手当を支給する年俸制) を導入し、本公募による採用の際にもこの新年俸制を適用します。  
(給与に関するお問い合わせ先：総務部人事課 076-445-6524)
- (5) 大学に設置された完成年度以前 (学年進行中) の学科等の教員の場合は、その旨と完成年度を明記し、所属長の許可があることが必要です。
- (6) 本件に関する照会先

国立大学法人富山大学 医薬系事務部 医薬系総務課  
医薬系支援チーム

電話 (076) 434-7016

FAX (076) 434-1463

E-mail ninyou@adm.u-toyama.ac.jp

- (7) 様式については、本学のホームページ  
<http://www.u-toyama.ac.jp/> の「教職員採用」からダウンロードして下さい。  
また、本学に請求していただいても結構です。
- (8) 富山大学では、多様な人材の積極的な応募を歓迎します。  
富山大学ダイバーシティ推進宣言に基づき、全学的に女性研究者を含め多様な人材が活躍できるよう、教育・研究活動と生活の両立支援、男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいます。  
男女共同参画推進やダイバーシティの取り組みは以下 URL をご覧下さい。  
[ダイバーシティ推進センター] <http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/>  
[富山大学ダイバーシティ推進宣言]  
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/other-info/gender-equal/>

以上

(様式-1)

# 履 歴 書

ふりがな 氏名		男・女	〒	現住所
生年月日(年齢)	(西暦) 年 月 日生( 歳)		TEL ( ) -	FAX ( ) -
			E-mail	
学 歴			資格(免許, 学位等)	
年月(西暦)	事 項	年月(西暦)	事 項	
職 事 歴 項				
年月(西暦)	事 項			
学会名及び社会における活動等				
年月(西暦)	事 項			
賞 罰				
年月(西暦)	事 項			
(西暦) 年 月 日	上記のとおり相違ありません。			印
	氏名			

<履歴書記載上の注意事項>

1. 年号  
全て西暦で記載してください。
2. 学歴欄  
(1) 大学学部入学以降の学歴を記入願います。  
(2) 研究生等の研究歴があれば記入願います。
3. 資格欄  
免許(登録番号), 専門医等(登録番号)及び学位(授与大学名, 学位記番号)等資格を記入願います。
4. 職歴欄  
(1) 職歴(非常勤講師を除く。)は全て記載してください。  
(2) 外国出張, 海外研修及び研究休職等のうち, 2か月以上のものについて記入願います。  
(注) 期間, 国名, 受入れ機関名及び身分(原語)等を記入願います。
5. 学会及び社会における活動等欄  
(1) 所属する全ての学会名のほか, 役職名(評議員等)を期間を付して記入願います。  
(2) 学術雑誌の編集委員等も記入願います。
6. 賞罰欄  
学会賞等の受賞について記入願います。

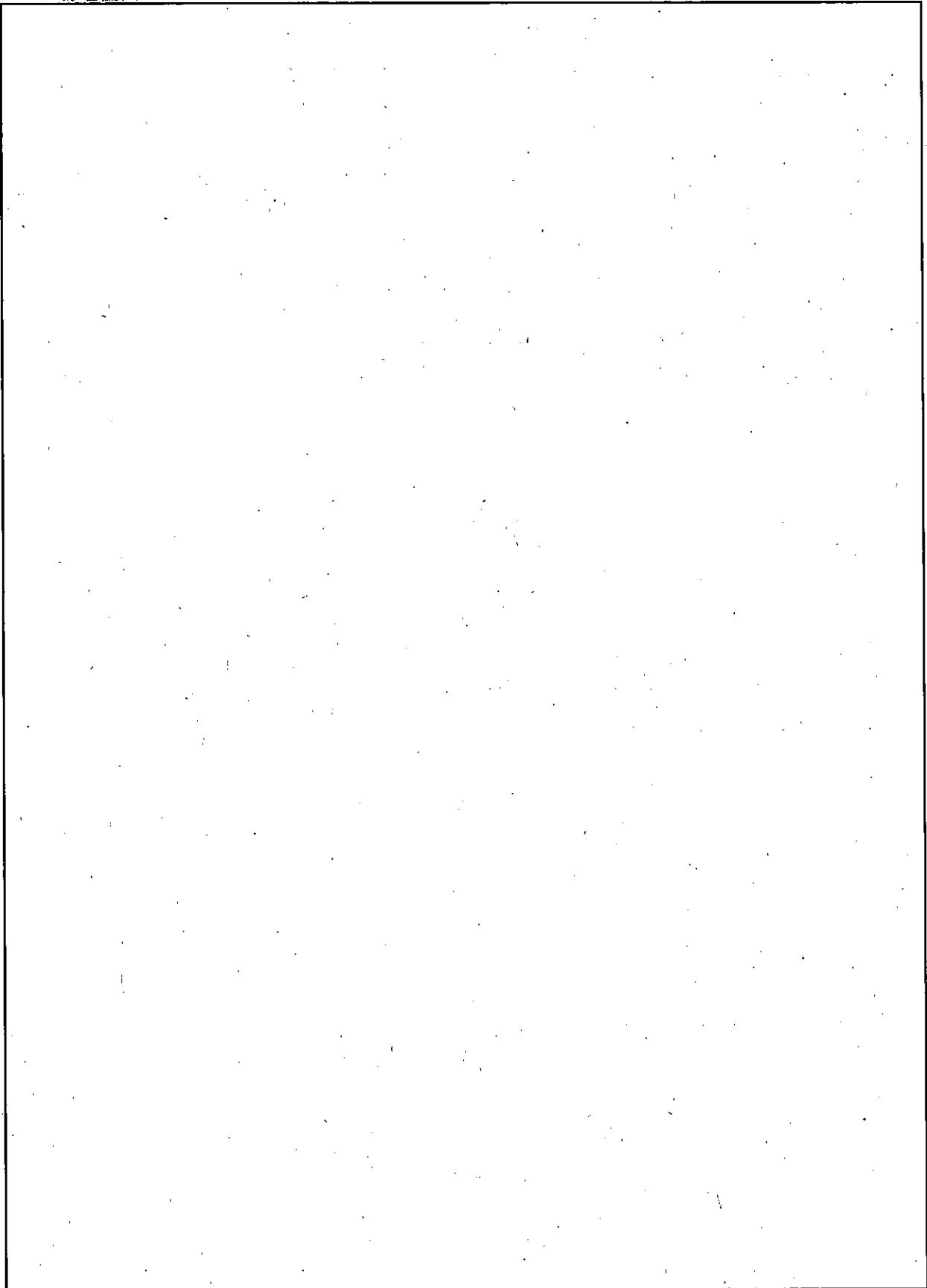
(様式2-1)

1. 著書

--

( 様式2-2 )

2. 原著論文



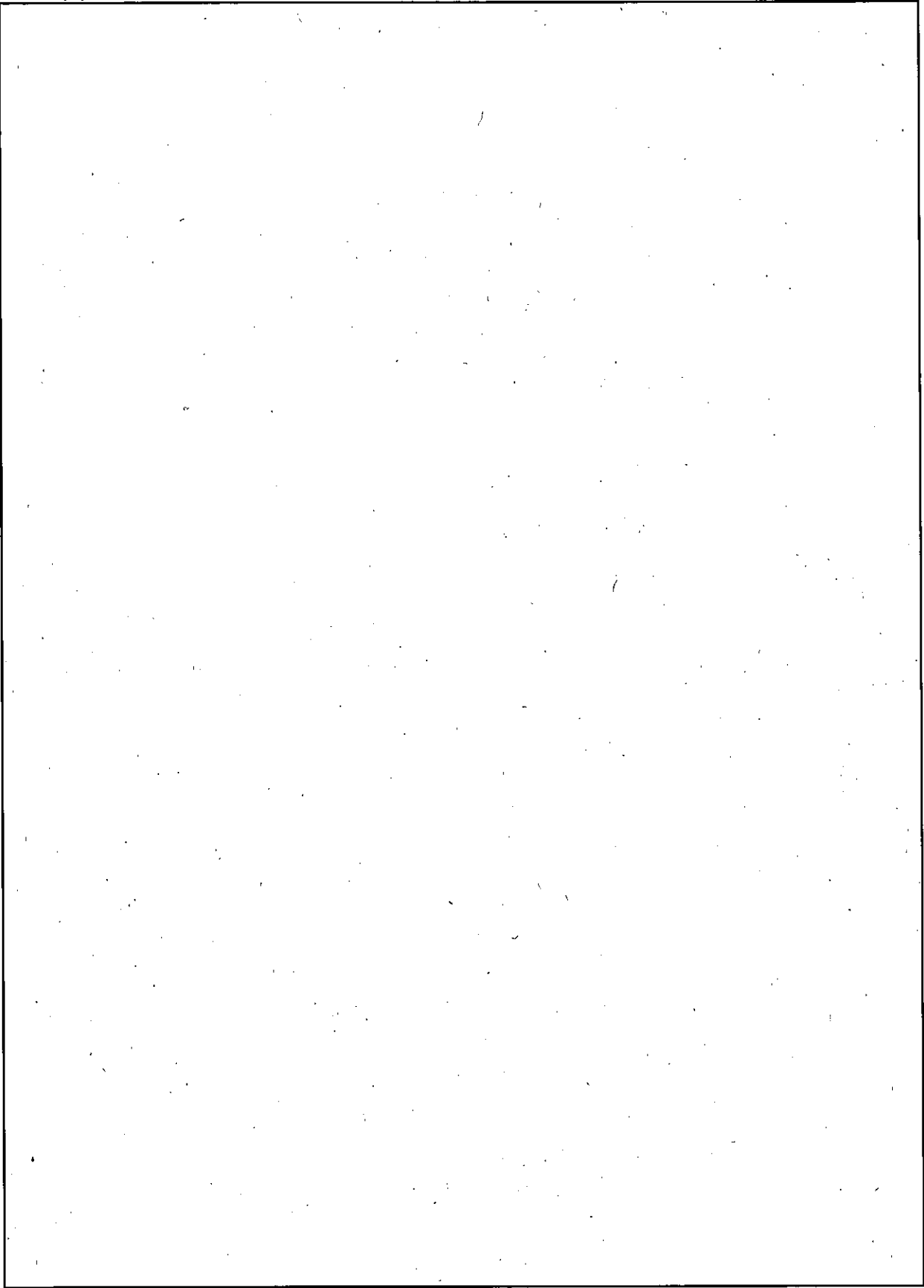
( 様式2-3 )

3. 症例報告

--

(様式2-4)

4. 総説





(様式2-5)

5. その他

--

(様式2-6)

6. 学会発表

--

<教育研究業績書記載上の注意事項>

1. 類別は、1. 著書、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他、6. 学会発表の順とし、各類別には、まず最初に外国語の論文を、次に日本語の論文をそれぞれ古い方から発表年(西暦)順に記入し、整理番号は、類別ごとに1から記入してください。  
なお、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他については、2021年のI F (インパクトファクター)がある場合には記入してください。  
(責任著者には\*を付けてください。)  
また、プロシーディングや文部科学省研究報告書、翻訳書は、「5. その他」に分類してください。
2. 掲載予定の論文には、掲載証明書のコピーを添付してください。
3. 学会発表は、まず最初に国際学会を、次いで国内学会の順に、招へい講演、特別講演シンポジウム(パネルディスカッションやワークショップ等の主題演題を含む。)、一般演題に分けて記入してください。  
なお、一般演題については、国際学会はすべて記載することとしますが、国内学会は記載する必要はありません。
4. 業績は、全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にアンダーラインを引いてください。
5. 記入にあたっては、10～12Pの文字を使用するとともに、別紙記載例を参考にしてください。

(様式2-1)

1. 著書

欧 文

1. Tateyama T, Sugitani S  
Metabolism of docosahexaenoic acid in the pineal gland.  
In Fatty acids metabolism in the nervous system, Malsaris W and Ma  
Y-Y( Ed. ) , 665-684, Boston, Saunders, 2002
2. Yakushi Y, Tateyama T, and Sugitani S  
Eicosapentaenoic acid and visual acuity in Japanese.  
In Brain and food: 15th Keystone Conference, Mehta S and Plevin A( Ed. ) ,  
London, Academic Press. In press

和 文

1. 立山太郎、杉谷三郎  
脂肪と健康  
実地医家のための生化学シリーズ, 10, 日本臨床生化学会編, 山と溪流社,  
富山, 2006
2. 薬師由美、立山太郎  
インスリン抵抗性改善薬  
治療薬テキスト 98, 川端康茂編, 123-125, 北山堂, 東京, 2008

(様式2-2)

2. 原著論文

欧 文

1. Tateyama T\*, Tsurugi J, Yakushi Y, Zinzu K, and Dai ni chi M  
Association between certain foods and risk of cerebrovascular accident in Japanese women.  
Br Med J, 241: 771-773, 2008 (IF: 14.093)
2. Tsurugi J, Tateyama T\*, Yakushi Y, Zinzu K, and Dai ni chi M  
Comparison of pulse wave velocity of the aorta between inhabitants of fishing and farming villages in Japan.  
Atherosclerosis, 63: 162-170, 2011 (IF: 3.794)

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、鎌崎山女、神通健二、大日正  
超高齢者における血清脂肪酸組成の検討  
日本動脈硬化学会雑誌, 52: 654-660, 2009
2. 薬師由美、鎌崎健二、立山太郎、神通健二、大日正  
大動脈脈波伝播速度・・・農村と漁村住民との比較検討  
日本内科学会雑誌, 96: 750-758, 2010

(様式2-3)

3. 症例報告

欧 文

1. Tateyama T\*, Tsurugi I, Yakushi Y, and Sugitani S  
Autoimmune hyperlipidemia in a patient of systemic lupus erythematosus  
Am J Clin Nutr, 30: 230-236, 2005( IF: 6.669)
2. Yakushi Y, Tateyama T, Tsurugi I, Kuwasaki M and Sugitani S  
Cryptococcal pleural effusion in a patient with chronic renal failure receiving  
long term corticosteroid therapy  
N Engl J Med, 285: 112-115, 2008( IF: 53.298)

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、鍛崎山女、大日正  
溪流釣りが原因で発症したと思われる筋挫滅症候群の一例  
日本腎臓病学会雑誌, 29: 321-326, 2007
2. 剣岩魚、立山太郎、磯野波兵、黒部五郎  
ヤマメ生食が原因となった広節裂頭条虫症の一例  
日本内科学会雑誌, 29: 321-326, 2009

(様式2-4)

4. 総説

欧 文

1. Tateyama T and Sugitani S  
Cardi ovascular effects of n-3 fatty aci ds.  
Lancet, 3331: 449-457, 2002
2. Tateyama T  
N-3 pol yunsaturated fatty aci ds and cytokine production in health and di sease  
Ann Nutr Metab, 45: 203-234, 2006

和 文

1. 立山太郎  
EPAの生化学  
喘息, 15: 35-40, 2005

(様式2-5)

5. その他

欧 文

1. Tateyama T

Fish and health

Proceeding of 16th annual meeting of the American Association of Fishermen and Anglers, 210-222, Baltimore, USA, 2002

和 文

1. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男、杉谷三郎

ループス肺臓炎の治療

厚生省特定疾患「全身性エリテマトーテス」研究班平成3年度報告書,  
201-230, 2001

2. 立山太郎

ループス腎炎

デュボア 全身性エリテマトーテス 第4版(日本語翻訳書), 654-720,  
立山書院, 東京, 2005

3. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男

DHAと心筋梗塞・不整脈

平成9年度水産資源からのDHA等の抽出精製及び生理機能の研究に関する報告書  
120-145, 社団法人マリノフォーラム21, 2007



(様式2-6)

6. 学会発表

国際学会

○招聘講演

1. Tateyama T

Lyspro in sulin---a new strategy for diabetes therapy  
33rd symposium of diabetes care, Bethesda, MD, USA, 2007

⋮

○特別講演

⋮

○シンポジウム

⋮

○一般演題

⋮

国内学会

○招聘講演

1. 立山太郎

インスリン作用とその異常-代謝作用から増殖作用まで  
第51回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2008

⋮

○特別講演

⋮

○シンポジウム

⋮

氏名

## 著書・原著論文等の合計数一覧

種 別		発表年		
		2012年以前	2013年～2017年	2018年～
著書	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
原著論文	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
症例報告	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
総説	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
その他	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編
学会発表	外国語	編	編	編
	日本語	編	編	編

※教育研究業績書に記載した原著論文等の合計数を御記入願います。

(様式3) 科学研究費等研究助成取得一覧

氏名 年 月 日 印

\* 過去10年間の科学研究費・財団等の研究助成実績について記載願います。

年 (西暦)	種類	研究課題名	代表・分担の別 (分担の場合は代表者名)	継続にあつては、その年数